

見えないところでは、こんなこともしています。

選書

数多い出版物の中から、図書館が所蔵していくべき資料を選択することを「選書」と呼びます。選書は図書館の資料収集方針(基準)などに基づいて行います。新刊書籍の選書は、図書館に直接持ち込まれる書籍の内容を確認しながら行う「見計らい」によって行われます。ただし、持ち込むことができる書籍の数や種類には限りがあるため、出版社などが発行する出版情報や、新聞・雑誌などに掲載される書評にもじっくり目を通して、選書の参考とします。



見計らいによる選書は、ほぼ毎週行っています。

蔵書点検

図書館資料の棚卸しともいえるのが「蔵書点検」です。特別整理期間として休館している間に、資料に貼っているバーコードラベルを専用の機械で一点一点読み込む作業を行っています。蔵書点検によって、所蔵資料の状態を把握することができます。また、発見した破損資料の修理や書架の清掃も行い、書架をリフレッシュします。



資料の状態に目配りしながら、正確に、手際よく作業を進めます。

修理

毎日多くの方が利用する中で、ページが破れてしまったり、カバーが外れてしまった資料などは、再利用できる状態に戻すために「修理」を行います。資料が返却された後や、書架整理の時などに、修理が必要な部分がないかどうかを確認しています。



破れたページをのりつけています。

資料を長く利用し、保存していくためには、破損部分を最小限に抑え、早い段階で修理を行うことが必要です。

目録作成

選書を経て図書館が所蔵した資料には、すべて目録情報を作成しています。目録の情報は、資料を識別するための情報(タイトルや著者名、出版者や資料の属する分野を示す分類記号など)と、資料の配架位置を示す請求記号などの所在情報から成り立っています。作成した目録情報は、館内にある蔵書検索用のコンピュータや、本館ホームページから検索することができます。



資料を隅々まで確認して、目録情報を作成します。

- ： 参考文献
- ： 『最新図書館用語大辞典』 図書館用語辞典編集委員会編 柏書房 2004年
- ： 『図書館用語集』三訂版 日本図書館協会用語委員会編 日本図書館協会 2003年



職員に聞きました—図書館のお仕事で大切なこと

資料奉仕部調査班 梶本 哲弥

図書館は、みなさまの課題解決に役立つ情報を提供する場です。課題といっても、学術的研究などといった難しいことではありません。日常生活の中で生まれた“わからない”を解決するための情報がたくさん詰まった場所なのです。このことを、図書館の原点として忘れずにいたいと思っています。そして、図書館をあまり利用したことのない方にも知っていただきたいと思います。

図書館で仕事をする上では、常に冷静であることを心がけています。レファレンスなどでカウンターを訪れた方が、どんなことを知りたいかを十分に理解し、適切な情報を提供するためです。

資料奉仕部利用サービス班 田村 さおり

毎日たくさんの方が「こんなことを知りたい」「こんな本を読みたい」という思いをもって図書館においでになります。その思いに応えて、求める資料を提供すること、つまり資料と利用される方とを結びつけることが図書館の大事な仕事のひとつだと考えています。そして、みなさまの求めに応じた資料を提供するためには「資料を知る」ことが大切です。そのために図書館でどのような資料を所蔵しているかを知り、出版情報や書評などから幅広く資料の情報を収集し、選書を行っています。

《叡智の杜》レポート 「第39回子どもの本展示会」を開催しました

平成20年4月19日(土)から4月30日(水)まで、本館2階のホール養賢堂において、「第39回子どもの本展示会」を開催しました。本展示会は、「こどもの読書週間」に合わせて毎年開催しているもので、図書館、学校、地域、家庭など、さまざまな場面での「子どもと本の出会い」に役立つことを目的としています。

今回は、本館が所蔵している平成19年に出版された児童書や絵本などのうち、約1,500冊と、食育に関する資料(100冊)、赤ちゃん絵本(50冊)と児童資料研究書(50冊)を展示し、会期中はのべ796人が来場しました。会場では、読み聞かせをする親子や、絵本を夢中で読みふける子どもの姿が見られ、豊かな子どもの本の世界に触れるひとときを楽しんでいる様子がうかがえました。

